

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



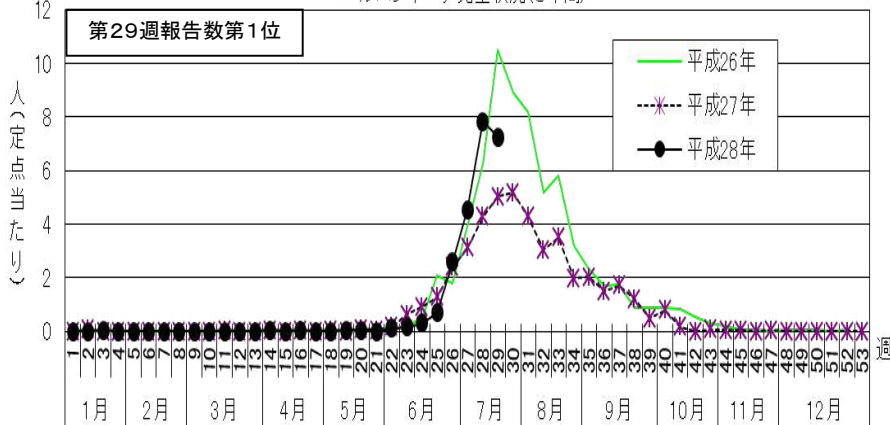
KAWASAKI CITY



平成28年7月18日（月）～平成28年7月24日（日）〔平成28年第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)流行性角結膜炎でした。  
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は7.24人と前週（7.84人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.27人と前週（5.73人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。  
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週（1.89人）から横ばいで、かなり高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



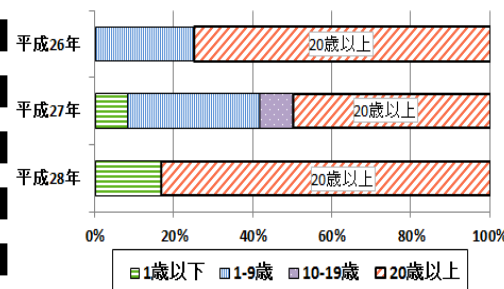
感染性胃腸炎発生状況(3年間)



## 注意すべき感染症～百日咳～

百日咳は、近年思春期や成人での患者数が増えており、川崎市においても20歳以上での報告が半数以上を占めます。成人では、症状が典型的でないことが多く、病院への受診や治療が遅れることで、ワクチン未接種の乳幼児への感染源となります。ワクチン未接種児の場合は、90%以上が感染し、1歳以下（特に6ヶ月未満）の乳児では、死に至る危険性が高い感染症です。

川崎市における百日咳発生状況(年齢階級別)  
 -平成26年第1週から平成28年第29週までの報告数-



カタル期や痙咳期に菌を排出します。  
 感染を広げないために、咳エチケット（マスクの着用など）が重要です。



### 百日咳ってどんな病気？

**感染経路:**咳やくしゃみなどによる飛沫・接触感染。

**症状:**

**カタル期(1～2週間):**かぜ症状で始まり、咳の回数が増え程度も激しくなる。

**痙咳期(3～6週間):**特徴的な咳となる。

短い咳が連続的に起こり、続いて息を吸う時に笛の音のような音が出る。

**回復期:**特有な咳込みが次第に減少する。

時折、咳発作が出ることがある。

**治療:**適切な抗菌薬による治療により、服用開始から5～7日で百日咳菌はほぼ陰性となる。

**予防方法:**予防接種が有効。

(ワクチンの免疫持続効果は4～12年)